

## 第3回自治協議会での防犯灯に関する協議概要（20150708第1部会用資料）

## ■部会報告時の各委員からの意見（概要）

## ＜防犯灯不公平、負担感について＞

- ・新しく道路ができ、街路灯ができたら市が全部持ってくるなど、場合によって不公平感や曖昧さが残っている。
- ・負担の大きいところは早く換えて、電気料だけでも軽減しようという中で換えている。市の（取り組みの）推進という意味も込め、補助率をアップしてほしい。
- ・庄瀬地区は不公平感的な意見は出ていない。
- ・不平等なままでいい人もいるが、ダメという人もいる。
- ・税金を払っているが、税金以外も支払わなくてはならない。負担がないところは税金だけなので不公平ではないか。
- ・小林さんの話は防犯灯の話。
- ・不平等感というのは今の制度の中では絶対ついてくる。
- ・不平等感について詳しく知りたい。防犯灯と街路灯がどういう基準でわかれているのかわからないと不公平感もわからない。
- ・防犯灯、街路灯（道路照明）の設置基準とは。
- ・公平性をキープするために建てすぎている街路灯を省いていこうという話になると本末転倒ではないか。
- ・一律の補助基準を追い求めれば、不公平感はより少なくなるのではないか。

## ＜旧味方村の制度について＞

- ・味方は合併時に防犯灯という名がつくものがなかった。
- ・味方は村の時代に防犯灯を道路照明にした経過がある。合併時には道路照明として村が管理していたので、そのまま移行。
- ・新潟市との合併事務調整で新潟市の防犯灯制度に味方が当てはまらないということから協議を重ねた結果、制度的に近い道路照明に事務調整がなされた。

## ＜防犯灯の考え方について＞

- ・自治会の要望ベースで建てているのであれば、負担もやむを得ないのではないか。
- ・自分たちの地域の安全を維持するために、話し合いをし、地域の取り組みとしてやっていくことも重要と考える。何のために自治会費を払っているのかということもある。

## ■部会報告に対する会長のまとめ（概要）

- ・第1部会も一つの意見でまとまっているわけではないのではないか。
- ・実現性があるような、どのようにしたら防犯灯に対する理解を得られるのかという方向の話をした方がよい。10割負担の話を市に出したところで、（市は）できないという回答で終わるのではないか。
- ・南区自治協議会として提言性のある案を違った方向からもっていければよいと考える。